

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第16回）

JICA ミャンマー事務所新所長、CREATE 視察

10月15日（木）、JICA ミャンマー事務所の中澤慶一郎新所長が初めて CREATE の事務所を訪問され、同プロジェクトの作業状況及び進捗を確認されました。中澤所長は、今年3月にミャンマー事務所に赴任されたばかりで、現在、ミャンマー国内で実施されている各分野の協力支援事業の把握に努められているとのことです。

当日は、CREATE 事務所訪問に先立ち、市内のパイロット校で実施された「道徳・公民」科のトライアウト授業も観察され、教育現場の様子にも興味を示されていたとのことです。

CREATE 事務所では、まず、プロジェクト概要についての説明を行いました。所長からは、特にミャンマーの新カリキュラム・フレームワークの内容（21世紀型スキルと新しい教授学習アプローチ）、教科書開発の手法、新教科書導入にかかる予算についての質問が出され、話し合いは約1時間程度続きました。

その後、3階で CDT が行っている教科書開発現場を一つひとつ丁寧に見学され、開発中の教科書ドラフトを見られたり、作業における難しさなどについて CDT に質問などをされていました。イラストレーターやコンピューター・オペレーターの作業状況も見学され、多様な種類のイラストが必要なこと、編集作業には専門的な技術が必要なことも認識された様子でした。



英語の進捗状況視察



音楽の新教科書ドラフトを見られる所長、後ろは稲田次長

教科書編集研修実施、参加者、真剣に耳を傾ける！

今月は、教育出版の松原専門家、関専門家、坂口専門家の三名が10日間の日程で来緬されました。そこで、この機会を利用して、これから本格的に始まる編集と組版作業、つまり初校、再校、三校という重要な作業を効率的に実施できるように、各教科 CDT から選ばれた編集責任者（各1名）、各教科カリキュラム・オフィサー、コンピューター・オペレーター、イラストレーターに対して集中的な編集・校正研修を10月16日（金）と21日（水）の午後を使って行っていただきました。

参加者の皆さんにとっては、「組版」、「出稿」、「入稿」、「初校」、「再校」、「三校」などの用語はもちろん、こうした作業すべてが初めての経験で、最初は少し戸惑いも見られましたが、説明が進むにつれて徐々に理解も深まったようでした。

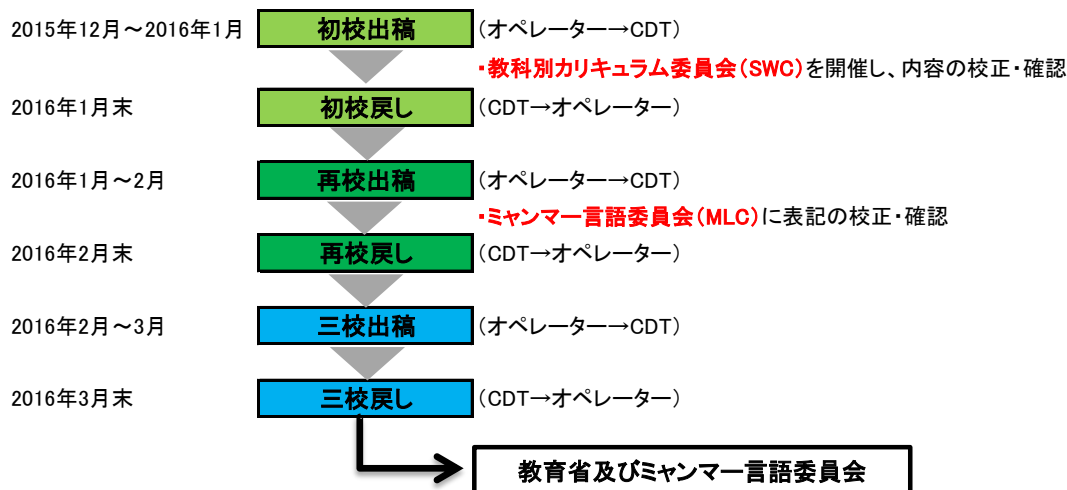
今回の研修において、これまでと大きく違う点は、紙ベースで行うことを徹底したことです。というのも、これまで CDT とコンピューター・オペレーターの間ではデータでやり取りしており、古いデータの上に新しい情報を書き加えていましたので、後から見た際に、どこを、どのように改訂したの



かが分からないという問題が発生していました。そこで、これからは紙ベースで行い、訂正箇所とその内容を残しておくということにした訳です。

同研修において、教科書編集作業の日程が以下になりました。なお、この作業と並行して、教師用指導書の編集・校正作業、さらには2年生用の教科書内容開発も行わなければなりませんので、見通しをしっかりとって、時間を効率的に使っていかないと、なかなか大変かもしれません。

教科書編集作業の日程 (案)



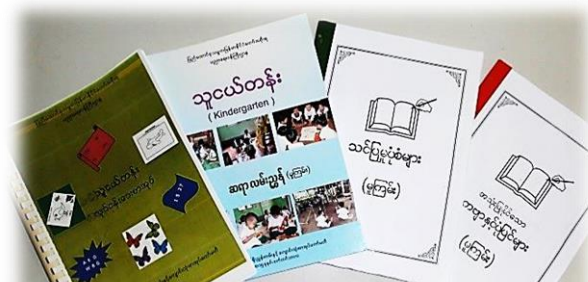
KG 教材、ついに完成！

これまで目立った進捗がなく、内容についても明確な情報が得られなかった謎(?)のKG(幼稚園段階)について、ようやく全貌が明らかになりました。2015年10月15日(木)ネピドーで教育省主催の「KGカリキュラム」会議が開催され、その場でKGの学習内容について発表がありました。この会議には、教育大臣及び副大臣をはじめ、教育省の局長など50名強の教育省関係者が参加されたようです。というのも、外国人コンサルタントや専門家の参加は認められませんでしたので、CREATEからはキンセインウィン(Khin Sein Win)さんに参加してもらったという訳です。

この会議で、来年度から実施されるKGで使うワークブック、教師用指導書、教師用補助教材が参加者全員に配布されました(右写真)。

ところで、すでに承認されているカリキュラム・フレームワークによれば、KGは、初等教育の最初の段階と位置付けられ、5歳児を対象に遊びや活動を通して身の回りの事柄について興味関心をもつようにしながら、日常生活における様々な事象を学んでいく課程と規定されています。

しかしながら、今回配布された教材を見ると、学際的な内容がかなりたくさん含まれていることが分かります。例えば、ミャンマー語の文字の読み書き、英語のアルファベット(大文字)の読み書き、数の数え方と算用数字の書き方などがその主な内容です。KGの導入後、現場の先生方が、カリキ



KGの新教材、左からワークブック、教師用指導書、レクチャープラン集、補助教材

キュラム・フレームワークで意図された理想的な幼稚園教育のあり方を忘れ、学科主義に走らなければいいのですが....

さらに、興味深い点として、新しい KG の教育制度上の位置付けについて、教育省内でまだ統一されていないようなのです。例えば、KG は義務教育か否か？ KG は初等教育か否か？ といった点については、教育大臣はじめ、局長など、人によって理解が違うのです。この新しい KG については、まだまだ一悶着ありそうな気がしないでもありません。CREATE としても注意深く見守っていくつもりです。

CREATE スタッフ、大統領から表彰！

我々 CREATE の算数カリキュラム・オフィサーであるキンスウェティン（Khin Swe Tint）さんが、2015年10月5日（月）に副大統領から表彰を受けられました。この賞は、退職された教育養成校関係者の中から選ばれ、現役時代の教育分野への偉大な貢献に対して贈られるものです。ある情報筋によれば、今年はず 60 名の候補者が教育省から選ばれ、その後、厳正な書類審査で半分の 30 名に絞られ、さらに 10 名に厳選された後、この 10 名のリストが全国の教員養成校に配布され、各校で投票が行われ、最も得票数の多かった 3 名が最終的に受賞したということです。

10月5日は「世界教員の日（World Teacher's Day）」でもありましたので、その日にネピドーで授賞式が行われました。CREATE にこのような立派な教育関係者がいることは、私たちの誇りです。

「キンスウェティンさん、受賞、おめでとうございます！」



副大統領から賞を授与されるキンスウェティンさん（ネピドーにて）
Global New Light of Myanmar（10月6日号）より転載

コラム：ミャンマーの火祭り

10月28日（水）は「ダディンジュ」と呼ばれる祝日でした。この日は、天界に赴いたお釈迦様が地上に戻ってくる日とされています。第13回ニュースレター（2015年7月31日発行）で「雨安居（あめあんど）始まりのお祭り」について書きましたが、10月28日は雨安居の終わりに相当します。ちょうど雨季が終わったという意味です。

一年に一回、地上に戻ってこられるお釈迦様のその足元を照らすために、ミャンマーの人々は大小の火を灯します。家庭では油を染み込ませた綿を小さな皿にのせたものやロウソクの火が使われます。大きな都市ではパゴダがイルミネーションで美しく飾り付けられます。この日一日は、人々は家族で町のそぞろ歩きを楽しみます。



文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）
編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）